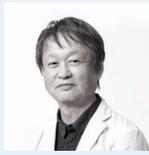


分野や領域を越える12のトークショーを開催！！

DAY1：2/12 (Wed)

DAY2：2/13 (Thu)



デザイナー
Naoto Fukasawa
深澤 直人 氏

2/12 (水) 11:00～
T-1 ついあそんじょうデザイン

人の想いを可視化する静かで力のあるデザインに定評があり、国際的な企業のデザインを多数手がける。日常生活用品や電子精密機器から家具、インテリア、モビリティ、建築に至るまで手がけるデザインの領域は幅広く多岐に渡る。デザインのみならず、その思想や表現などには国や領域を超えて高い評価を得ている。英国王室芸術協会の称号を授与されるなど受賞歴多数。2018年、「イサム・ノグチ賞」を受賞。多摩美術大学教授。日本民藝館館長。2022年、一般財団法人 THE DESIGN SCIENCE FOUNDATION 設立。



建築家
法政大学教授
Tetsuo Kobori
小堀 哲夫 氏

2/12 (水) 13:00～
**T-2 佇まいは語る
Presence more than words**

1971年、岐阜県生まれ。2008年、株式会社小堀哲夫建築設計事務所設立。日本建築学会賞、JIA 日本建築大賞、Dedalo Minosse 国際建築賞特別賞、IDA 賞、AMP 賞など国内外において受賞多数。代表作に「ROKI Global Innovation Center -ROGIC-」「NICCA INNOVATION CENTER」「梅光学院大学 The Learning Station CROSSLIGHT」「光風湖園べにや」など。その場所の歴史や自然環境と人間のつながりを生む、新しい建築や場の創出に取り組む。



医療法人コミュニテ風と虹のぞえの丘病院 院長
Naoki Horikawa
堀川 直希 氏

2/13 (木) 11:00～
**T-5 願いは、病院を超えて。
～風と虹の街に込めた願い～**

東京医科大学医学部医学科卒業。久留米大学医学部 助教を経て、平成30年久留米厚生病院 院長。現職は医療法人コミュニテ風と虹のぞえの丘病院 院長。医療法人コミュニテ風と虹 副理事長、社会福祉法人風と虹 児童心理治療施設 筑後しずみ園 副理事長 / 廣託医、福岡県精神科協会 理事、精神保健指定医、日本精神神経学会 精神科専門医・専門医指導医、子どものこころ専門医。



株式会社ズクトエ共同代表
前 株式会社岩岳リゾート代表取締役
Yutaka Wada
和田 寛 氏

2/13 (木) 13:00～
**T-6 世界標準のオールシーズン
マウンテンリゾートを目指して**

1979年東京都生まれ。2000年東京大学法学部卒、農林水産省入省。ペイン・アンド・カンパニーを経て、2014より白馬に。2016、2017年の記録的な小雪でスキー場の来場が激減したことを受け、白馬岩岳マウンテンリゾートの経営者として冬季のスキー客だけに頼らない「オールシーズン・マウンテンリゾート」を目指した改革を実践。山頂の展望テラスや大型ブランコなど、革新的なアイデアを次々投入した結果、2019年にはグリーンシーズンの来場者数がインターシーズンを超え、そのあとも集客を伸ばし続けています。現在は、観光・リゾート地の再生に向けたコンサルティング企業「株式会社ズクトエ」を設立。長野県白馬村を本拠に事業を行う。

こんな取り組みを されています ▶▶ OMOCHI、BANRIなど あそんじょう遊具シリーズをデザイン

～こんな方におすすめ～

- ✓あそびたくなるデザインに興味がある方
- ✓遊具の開発において、デザイナーが大切にしていることを知りたい方

1. シンプルだけど奥深いあそびのデザイン

深澤直人氏とジャクエツは、これまでに11種類の製品を共同開発してきました。それらには、OMOCHI、BANRI、TAWARA などユニークな名前がつけられ、シンプルでまるでアートオブジェのような美しい見た目をしていますが、子どもたちから見ると、ついつい駆け寄って遊びたくなる要素が詰まっています。深澤氏はこれらのデザインを単に遊具ではなく、思わず「あそんじょうもの」といい、その領域も遊具だけでなく椅子や机のデザインなど暮らしを取り巻くものへと広がっています。



こんな取り組みを されています ▶▶ 大阪万博のバビリオン「いのちの遊び場 クラゲ館」を設計

～こんな方におすすめ～

- ✓空間設計や環境づくりのプロセスについて関心がある方
- ✓プレイフルデザインや共創の場が、どのようにつくられるか知りたい方

1. あそびをテーマに万博バビリオンを設計

小堀氏が設計を担当する大阪万博のシグネチャーバビリオン「いのちの遊び場 クラゲ館」(中島さち子氏プロデュース)では、プレイマウンテンと呼ばれる丘に、まるでクラゲのようなゆらぎのある大屋根がかり、創造の木を中心に多様な個性が響き合うプレイフルな共創の場がつくられます。あそびの世界をテーマにしたバビリオンは、共に創造の喜びを共有する場となります。

2. 共創の場をつくる

小堀氏は、企業のイノベーションセンターや学びの場となる学校の設計も数多く手がけています。ワークショップやディスカッションを通じて共創の場を設計プロセスに組み込むことで、主体性と創造性を引き出す空間づくりをされています。

3. 佇まいが持つ力

「佇まい」にはその土地の歴史や文化、自然、変化し続ける社会など、過去の痕跡と未来の予兆が内包されています。それゆえ、佇まいに耳を傾けることや佇まいで想いを表現することは、建築の本質に触れることであり、建築と誠実に向き合うことだと、小堀氏は述べています。



こんな取り組みを されています ▶▶ 精神科病院という概念を拡張して目指す「治療共同体」づくり

～こんな方におすすめ～

- ✓事業の枠を超えた包括的な施設づくりを目指している方
- ✓地域に開かれた施設づくりに興味がある方

2. 目指すのは、病院を拡張した存在

のぞえの丘病院では、小中学校の教室や保育園、地域の人も利用できるカフェイベントホールなど、地域に開かれた医療施設が作られています。その根底にあるのは、いまの時代の心の疾患に対応できる、病院を拡張した何かを作りたいという思いです。拠点としての病院のほか、地域に広がるさまざまな施設、さらにインターネットなど現代のテクノロジーも駆使して、病院という概念を拡張しようと考えられています。

3. 本格的なホースセラピーを実践できる新施設

病院という枠に収められないさまざまな活動を展開する中でも、最新の取り組みとなるのが「のぞえ牧場ギョウブ」です。ここは、馬への餌やりやブラッシングなどのふれあいを通じて、心と身体、また障がいがある方々の社会復帰を目指す就労支援施設。4800平方メートルの敷地に、馬場や馬小屋、レストランを備えたクラブハウスなどを備え、通産子やボニー、ミニチュアホースなど6頭を飼育しています。



こんな取り組みを されています ▶▶ SNSでも話題 スキー場の山頂に5時間待ちのブランコが出現

～こんな方におすすめ～

- ✓地域資源を活かしてエリアの活性化をはかりたい方
- ✓新たな活路を見出す発想力と実践力について学びたい方

1. 従来の枠組みを捉え直す

和田氏は、スキー人口の減少という厳しい現実の中で、「ライバルはディスニーランド」だと語り、スキー場の枠を超えて一年中楽しめるオールシーズン型のリゾートを目指しました。既存の枠組みにとらわれず、新たな価値を創造することで、困難な環境の中でも持続的な経営の道を見つかることができるのではないのでしょうか。

2. 大自然と遊ぶ

世界的に見ても豊かな観光資源である白馬の自然を十分に活用しきれていないと考え、価値ある体験として提供することを旨としています。「ヤッホースワング」(ジャクエツが製作)は、大人も楽しめる高さ4メートルのブランコ。360度の自然の美しい景色を楽しめる仕掛けで、繁忙期には5時間待ちの行列ができるほど人気になりました。その他にも様々なアイデアで独自の体験を提供し、来場者の大幅な増加を実現しました。

3. 地域に根を張り、持続的な開発を目指す

「ズクトエ」という社名は観光業界に求められる新たな挑戦の精神を象徴しています。その由来は、信州方言の「ズク」と「智慧」の組み合わせから来ています。「ズク」は気力や根性、やる気といった意味を持ち、これらを融合して埋もれた資産を発見し磨き上げることで、観光業の革新を目指しています。スタッフや地域の人々と協力しながら、現在は広く地域の活性化事業に取り組まれています。



早稲田大学スポーツ科学学術院 教授
Norikazu Hirose
広瀬 統一 氏

2/12 (水) 15:00～
T-3 あそびを通じて豊かな社会をつくる

早稲田大学人間科学部スポーツ科学卒業。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。スポーツ学者、アスレティックトレーナー、スポーツや遊びにおける動きの協調や、人と人との協調のありように関心を寄せ、効果的なコンディショニングの研究・開発につなげています。これまでに「リーグユースアカデミーやなでしこジャパンなど、トップアスリームのサポートに従事。それらの知見をもとに、さまざまな特性をもった子どもや大人への運動プログラム開発や指導も行っている。「スポーツ科学を通じてすべての子どもの幸せに貢献する」をミッションに掲げて活動している。



太宰府天満宮 宮司
Nobuhiro Nishitakatsuji
西高辻 信宏 氏

2/12 (水) 17:00～
**T-4 アートで繋ぐ歴史 ～太宰府天満宮の取り組み～
ー参拝者 1,000万人の秘密ー**

1980年福岡県太宰府市生まれ。御祭神・菅原道真公から数えて40代目子孫に当たる。東京大学文学部(美術史学)卒業後、國學院大学大学院にて修士(神道学)号並びに神職資格を取得。現代アートに造詣が深く、神職としての祭事仕仕に加え美術展企画やまちづくりに積極的に関わる。2027年の菅原道真公1125年式年大祭を前に太宰府天満宮御本殿大改修の為、参拝者を迎える仮殿の設計を建築家 藤本壮介氏に依頼。境内の神の社と飛梅伝説に着想を得て、屋根に森を戴いた新斬つ美しい3年限定型の特別な仮殿は、大きな話題となっている。



黒龍酒造株式会社 代表取締役
Naoto Mizuno
水野 直人 氏

2/13 (木) 15:00～
T-7 地域を醸す 酒蔵の取り組み

黒龍酒造8台目蔵元。1964年生まれ、福岡県永平寺町出身。東京農業大学醸造学卒業。協和発酵での勤務を経て、1990年黒龍酒造株式会社入社。2005年より代表取締役就任。福岡県酒造組合会長。1804年(文化元年)の創業から代々受け継がれてきた「良い酒を造る」という貫いた理念のもと、日本酒の新たな価値の創造に取り組む。2004年の創業200周年には、期間限定の大吟醸「九頭竜 大吟醸」を発表。その後、2018年には最高級純米酒「無二」の発売を機に、日本酒業界初となる入札会を開催。2022年6月には、黒龍酒造の日本酒を核として、福井を拠点とした北陸の食や文化を発信する拠点「ESHIKOTO」を永平寺町下津寺寺にオープンした。



IPU・環太平洋大学教授
お茶の水女子大学名誉教授
十文字学園女子大学名誉教授
Nobuko Uchida
内田 伸子 氏

2/13 (木) 17:00～
**T-8 AIに負けない力
～非認知能力を育む、子ども中心の保育～**

学術博士 (Ph.D.in Psychology)。発達心理学、認知科学、保育学を専門とし、主な著書には「発達心理—ことばの獲得と学び」(サイエンス社、2017)、「AIに負けない子育て—ことばは子どもの未来を拓く」(ジヤース教育新社、2020)、「想像力—生きる力の源をさぐる」(春秋社、2023)など多数。NHK「おかあさんといっしょ」の番組開発・コメンテーターも務める。国際賞・功労賞(日本心理学会、2016)、文化庁長官表彰賞(文化庁、2019)、文化功労者(2021)、瑞宝重光章(2023) 授章。

こんな取り組みや 研究をされています ▶▶ スポーツ科学を通して、ネットワーク(人々の関係性やつながり)を創出

～こんな方におすすめ～

- ✓非認知能力を育む教育・保育を実践していきたい方
- ✓スポーツやあそびを通じた最先端のプログラムに関心がある方

1. つながりを可視化する

サッカーでは、3人の関わり合いがチームパフォーマンス向上に影響を与えることが明らかになっています。あそびの場では子ども同士とのつながりであるネットワークがどのように作用しているのか、子どもたちに活動設計をつけ、加速データを用いて「3人のつながり」を可視化・定量化する調査研究を行っています。異年齢保育と年齢別保育といった保育環境の違いによって生じるネットワークの変化など、現在様々な分析を進めています。

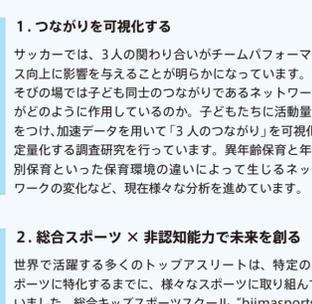
2. 総合スポーツ × 非認知能力で未来を創る

世界で活躍する多くのトップアスリートは、特定のスポーツに特化するまでに、様々なスポーツに取り組んでいました。総合キッズスポーツスクール「biimasports」

では、7種類以上のスポーツを総合的に実施することで、運動が苦手な子ども得意な子ども、楽しみながら基礎運動能力を培っています。また、変化の大きい社会では、学力などへの認知能力ではなく、「やり抜く力」「創造性」「コミュニケーション能力」などの非認知能力が重要で、幼少期の体験が大きな影響を与える能力だと言われています。「総合スポーツ」と「非認知能力」が融合した教育プログラムで、21世紀に活躍する人材を育成されています。

3. あそびの工夫で自分を超越る

発達障がい児は、姿勢の調整や全身を協調した動きに関する課題を抱えていることがあります。そういった子どもたちの課題を解消し、さらには生活の質の向上へも貢献するために、スポーツ科学の視点に立った運動療育プログラム「Be-Well プログラム」を開発されました。「遊びの工夫で、笑顔が増える」をコンセプトに、あそびを通して楽しく運動しているうちに運動能力が向上するプログラムを提供しています。障がいが無いに関わらず、「できた!」という成功体験が子どもたちの自己肯定感を高め、ウェルビーイングの向上にもつながっています。



こんな取り組みを されています ▶▶ 最先端の試みで、1000年の歴史と文化を次代へつなぐ

～こんな方におすすめ～

- ✓日本的な心を大切にしたい教育に関心がある方
- ✓歴史と未来をつなぐ長期的な視点の取り組みについて知りたい方

1. 伝統的な日本文化と自然について学ぶ

太宰府天満宮の境内にある太宰府天満宮幼稚園では、自然との関わりや伝統文化を重視し、子どもたちに季節感を体験させる教育を展開しています。和菓子や日本茶の体験を通じ、子どもたちは五感を活かして学び、自然や文化に対する感受性を高く、心と体の両方を育てる教育を実践されています。

2. 太宰府天満宮アートプログラム

太宰府天満宮では国内外から幅広いジャンルの著名なアーティストが参加し、境内や周辺に独自の作品をおさめています。これらのアーティストとのコラボレーションにより、参拝者に新しい文化的体験を提供し続け、次世代に豊かな文化的遺産を引き継ぐ取り組みを行っています。

3. 未来の種をまく

西高辻氏は、現在の活動が100年後、さらには1000年後にどう影響するかを見据え、長期的視点で文化や伝統を次世代に引き継ぐことを重視されています。伝統を引き継ぐためにはその時々の最先端を試みないといけないという考えから、現在、御本殿の改修に伴いつくられた「仮殿」の建築デザインにおいても斬新な試みがなされており、屋根に豊かな社(もり)をたたえ境内の自然とつながる独創的な姿からは、この場所が歴史と未来がつながる特別なものであることを感じさせられます。



こんな取り組みを されています ▶▶ 地の感動を開拓し、地を醸す。食と文化を育む ESHIKOTO の挑戦

～こんな方におすすめ～

- ✓家業の承継から新しい取り組みにチャレンジしたい方
- ✓伝統的な文化の再発信と活性化に関心がある方

2. 地域を「醸す」仕事

酒蔵の役割は、日本酒を核に福井を中心とした北陸の文化を伝えることです。ワインの産地であるフランスのブルゴーニュ地方でのワインづくりのように、その土地の恵みからお酒を造ることにこだわり、お酒を楽しむだけでなく、その土地の風土や食、交流までも楽しむことができる場づくりを行っています。福井の酒造りの源でもある清流 九頭竜川を一望できるこの土地で、日本酒を核とした人と人の出会いを促し、福井の食文化や伝統工芸の素晴らしさを発信しています。

3. 北陸の食と文化を「とこしえ」に

「ESHIKOTO」は「善(え)しこと」と意味し「永(とこしえ)」を逆から読んだネーミングです。この施設では、日本酒だけでなく、建築、宿泊、体験、食、アートと幅広い領域で、それぞれの楽しみ方ができます。福井という土地から生まれる感動を創出し、出会った人々の人生を豊かにする、「場を醸す」ブランドとして、今後宿泊施設や蒸留酒の開発など、新たなチャレンジも進めています。

1. 伝統と革新 -変わるながら変わらない価値-

黒龍酒造は、220年の歴史の中で築き上げられたよい酒造りを継承しながら革新を繰り返してきました。例えば、冷蔵庫が普及すると冷酒を販売し、日本酒を冷やして楽しむスタイルを定着。現在の生活様式に合わせた720mlのオリジナルボトルの開発を行うなど、「よい酒を造れば、人は必ず支持してくれる」という創業の精神を引き継ぎながら、時代にあった価値を追求し続けています。



こんな研究を されています ▶▶ 未来の社会を生き抜く子どもの教育力や援助について

～こんな方におすすめ～

- ✓非認知能力を育む教育・保育を実践していきたい方
- ✓エビデンスに基づいた子どもの支援や主体的な学びの環境づくりに関心がある方

1. 脳の発達と学びの関係

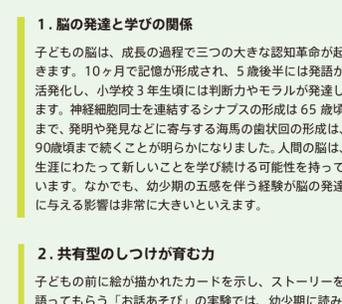
子どもの脳は、成長の過程で三つの大きな認知革命が起きます。10ヶ月で記憶が形成され、5歳後半には発語が活発化し、小学校3年生頃には判断力やモラルが発達します。神経細胞同士を連結するシナプスの形成は65歳頃まで、発明や発見などに寄与する海馬の歯状回形成は、90歳頃まで続くことが明らかになりました。人間の脳は、生涯にわたって新しいことを学び続ける可能性を持っています。なかでも、幼少期の五感を伴う経験が脳の発達に与える影響は非常に大きいといえます。

2. 共有型のしつけが育む力

子どもの前に絵が描かれたカードを示し、ストーリーを語ってもらう「お話あそび」の実験では、幼少期に読み聞かせを受けた子どもが、想像力豊かな語りを行うことが確認されました。親子の触れ合いを大切に、子どもと楽しい経験を共有する「共有型」のしつけにおいては、3H(優める・励ます・広げる)の言葉かけがとても多く見られます。こうした対話が子どもの「聴く力」を育て、相手への思いやりや自分で考える力を培います。

3. レジリエンスで乗り越える

20年後は、今ある仕事の約半分がAIによって替わられるといわれています。IQや偏差値といった認知スキルだけでなく、社会性や情緒、目標達成力などの非認知スキルが、今後の社会で重要な役割を果たします。特に、レジリエンス(逆境に直面した際に困難を乗り越える力)は、幼少期のあそびや生活経験がその成長に大きく影響を与えます。人間は、縄張り争いといった奪い合いの歴史から脱し、交流し協力し自分だけの利益を超えた絆を形成することで、進化を続けてきました。子どもたちの主体的な学びの環境づくりは、AIにも負けない力を養い、人間ならではの新しい価値の創造が期待されます。



共遊空間EXPOの見どころポイント

01 あそびに新たなデザインを PLAY DESIGN LABの遊具が一堂に集結！

あそびの研究所 PLAY DESIGN LAB が国内外のデザイナーや研究者と開発したこれまでにないユニークな遊具を一挙展示します。頭で考えたり心で感じるよりも先に体が無意識に反応してしまうような、思わず「あそんじょう」デザインのひみつがご覧いただけます。それぞれのプロダクトを担当したデザイナーも会場にお越しいただけます。



写真はイメージです。

02 企画・設計・施工・運営管理の一貫した支援体制 あそびの視点を活用したまちづくりの事例を紹介！

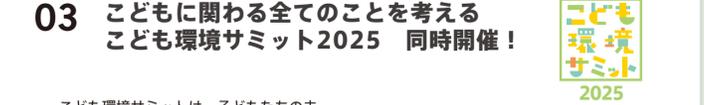
地域社会や施設が抱える課題に対して、あそびを通じた解決事例をご紹介します。子育て支援施設や公園といった地域の憩いの場から、道の駅、リゾートホテル、スキー場といった多様な人々が行き交うレジャースポットまで、子どもたちに関する長年の知見と、企画・設計・施工・運営管理のワンストップでサービスを提供できる強みを活かし、さまざまな場所にあそびをインストールしています。



公園の活用方法を模索する社会実験の企画・運営 (大阪府東北郡忠岡町)

03 こどもに関わる全てのことを考える こども環境サミット2025 同時開催！

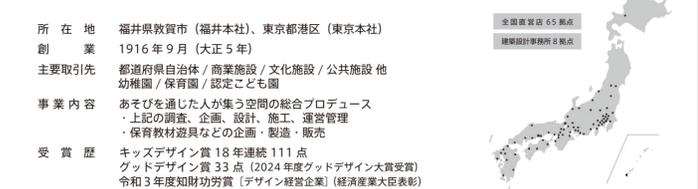
こども環境サミットは、子どもたちの未来に関わることをさまざまなジャンルの専門家と一緒に考えるイベントです。2017年の初開催から今回で4回目を迎えます。第4回のテーマは「あそびで越える、自分を超える」。立場や領域を越えて、社会全体で子どもたちの未来を考える、そして次の時代に挑むために、今までの自分を超えていく。そんな一歩を踏み出すきっかけになればと考えています。



多数の教育・保育関係者が参加されます

主催者：株式会社ジャクエツ

1916年創業。「未来は、あそびの中に。」をスローガンに掲げ、企画・コンサルティングから設計、施工、運営管理まで、地域社会や施設の課題解決に向けたサービスをワンストップで提供しています。近年は包括連携協定の締結や Park-PFI事業への参入など、あそびの視点を活かしたまちづくりに取り組み、質の高いあそびの環境をデザインすることで、子どもたちの成長とともに大きく花開いていく「未来価値」を創造し続けています。



所在地 福岡県敦賀市(福井本社)、東京都港区(東京本社)
創業 1916年9月(大正5年)
主要取引先 都道府県自治体 / 商業施設 / 文化施設 / 公共施設 幼稚園 / 保育園 / 認定こども園
事業内容 あそびを通じた人が集う空間の総合プロセス
・上記の調査、企画、設計、施工、運営管理
・保育教材道具などの企画、製造、販売
受賞歴 キッズデザイン賞 18年連続 111点
グッドデザイン賞 33点(2024年度グッドデザイン大賞受賞)
令和3年度知財功労賞(デザイン経営企業)(経済産業大臣表彰)



「群言堂」創業者 Daikichi Matsuba 松場 大吉 氏 Tomi Matsuba 松場 登美 氏

2/14 (金) 11:00~ T-9 子育てとまち育て ~松場夫妻の石見銀山での取り組み~

松場 大吉 / 1953年、鳥根県大田市大森町生まれ。1998年に妻の登美と共に株式会社石見銀山生活文化研究所を設立...

こんな取り組みをされています >>> NHKでも放送！人口400人 石見銀山の豊かな子育て、まち育て

~こんな方におすすめ~

- ✓そこではできない、地域文化を育む教育の実践について知りたい方
✓生活と文化を同時に豊かにしていく持続的なまちづくりについて知りたい方



1. 古民家を活用しながらのまちづくり

鳥根県大森町(石見銀山)を拠点に、古い町並みや家屋を再生しながら地域の活性化に取り組んでいます...

2. 存続危機の保育園を絶やさない

園児数が2名まで減り閉園の危機にあった保育園を地域の方で存続させました。補助が打ち切られる中、地域住民と共に資金を集めて保育園を維持し...

3. 地域文化を大切にしたい教育

地域に根ざした教育を重要視し、地域の自然や文化を活かして保育活動に取り組んでいます...



学校法人軽井沢風越学園 理事長 Shinnosuke Honjo 本城 慎之介 氏

2/14 (金) 13:00~ T-10 あそびのなかの異・違・移

学校法人軽井沢風越学園理事長。5児の父。慶應義塾大学大学院在学中の1997年に三木谷浩史氏と共に楽天株式会社を創業...

こんな取り組みをされています >>> 元楽天副社長が軽井沢で挑む 新しい学校づくり

~こんな方におすすめ~

- ✓実体験から学びを生み出す教育ノウハウに関心がある方
✓移住・定住の促進を図り、教育の力を地域活性化につなげたい方



1. 多様な子どもたちが交流し、社会性が養われる

幼稚園から中学校までの子どもが一つの校舎で過ごす「混在校」の軽井沢風越学園。年齢やスキルが異なる多様な子どもたちの間で自然な交流が生まれることで...

2. 協働や実体験を重視した学びの実現

AIの進化は学習の個別化を促進する一方で、学びの孤立化や主体性の喪失につながる可能性があることを懸念しています...

3. 移住者増加による地域活性化

軽井沢風越学園は、町おこしにも大きな影響を与えています。開校により東京などの都市部から軽井沢への移住者が増加し...



福井県立大学 地域経済研究所 准教授 ウェルビーイング学会 理事 Sho Takano 高野 翔 氏

2/14 (金) 15:00~ T-11 ウェルビーイングを目指したまちづくり まちに居場所と舞台を

ウェルビーイングを深める「居場所と舞台」に注目の研究・まちづくり活動を行う。2014-17年には、プータン王国にて、Gross National Happiness (GNH)を軸とした国づくりに協力...

こんな取り組みをされています >>> 幸せの国プータンや幸福度No1 福井県でウェルビーイング施策を実践

~こんな方におすすめ~

- ✓地域活性化にウェルビーイングの視点を取り入れた方
✓子どもの自己肯定感や社会性の育成に興味がある方



快適な歩行者空間の創出に向けた社会実験「ふくみち」プロジェクト

1. つながりが幸福度を高める

ウェルビーイングは単なる身体的・精神的健康だけでなく、社会的なつながりも包括した概念です...

2. ウェルビーイングで町おこし

ウェルビーイングを高めるために、高野氏は福井市と協力して道を楽しむ「ふくみち」プロジェクトに取り組まれてきました...

3. 自己肯定感と社会性を育むあそび

子どもにとってのあそびは、自己肯定感や社会性を育む重要な要素です。あそびの中で子どもたちは助け合いや挑戦、相互の寛容などを学び...



エッセイスト メディアパーソナリティ Keiko Kojima 小島 慶子 氏

2/14 (金) 17:00~ T-12 「ふつう」ってなんだろう? ~発達障害と生きる~

1972年生まれ。1995年学習院大学法学部政治学科卒業。TBS入社、アナウンサーとしてテレビ・ラジオに出演...

こんな取り組みをされています >>> 自身の経験を踏まえ、発達障害への正しい理解と認識を広げていく

~こんな方におすすめ~

- ✓発達障害の特性を持つ子どもの教育に関わっている方
✓多様性のあるまちづくりや組織づくりに取り組む方

1. 発達障害への偏見をなくすために

子どもの時から、大人たちに「どうしてふつうにできないの?」と言われることが多かった小島氏。40歳を過ぎてから発達障害の一つであるADHD(注意欠如多動症)であると診断され...



日経 ARIA における人気連載「小島慶子の ARIA な一歩」。人生の次のステージに向けて、新たな気づきや挑戦が覗かれています。

2. 脳の多様性への理解を促す

近年では、ニューロダイバーシティ(脳・神経の多様性)という言葉も広まっています。これは、「普通の脳」と「普通ではない脳」の二つに分けるのではなく...

3. 自分自身の特性を大切に

この世に同じ脳みそは一つもないのだから、違っていて当たり前。答えは非常にシンプルでありながら、そこにたどり着けていない方も少なくはありません...

ジャクエツが初開催する「共遊空間EXPO」ではあそびを軸としたつながりやまちづくりについて、皆様と一緒に考えていきます。こどもに関わる社会課題は、一つの施設の中だけでは解決し得なくなっています...



日時: 2.12 [Wed] - 2.14 [Fri] 10:00~19:00

会場: 東京都 大田区産業プラザPiO



発送元: 株式会社ジャクエツ イベント事務局 〒156-0043 東京都世田谷区松原1-54-9 TEL:03-3323-1188

誰もが一緒にあそべる遊具開発 RESILIENCE PLAYGROUNDプロジェクト



グッドデザイン大賞 (内閣総理大臣賞)



あそびから一番遠い子どもたちと、一緒にあそぶ日常をつくるために

RESILIENCE PLAYGROUND プロジェクト 開発プロセス



1. 医師、ケアスタッフ、保護者、地域のプレーヤーと連携してプロジェクトを開始



2. 感覚刺激への配慮やストレスの少ない環境づくりを目指して調査検証



3. 医療的ケア児も、健常とされる子どもと一緒に楽しめる分断のない遊具をデザイン

背景

医療的ケア児の現状として「3歳の子どものに友だちと一度も遊んだことがない」「遊ぶ機会が無く笑顔が少ない、ケアする人につくり笑顔をする」などあそびから遠いことをきっかけに...

私たちは、遊具側から自分らしく遊ぶことや分けなくていいことの主張を試みしました。家と病院の往復から地域のあそび場に出るきっかけを作ったり、友だちと一緒に遊ぶための媒介になったりするような遊具の在り方を目指し...

デザインを実現した経緯と成果

最も重度な障がいをもつ子どもも健常とされる子どもまでを遊具の対象とし、「あそびたくてもあそべない」という社会の障がいを減らし、自分らしく楽しいと感じられる世界を目標にしました...

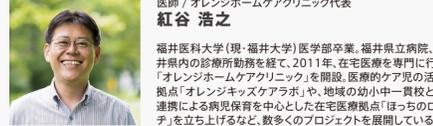
健常とされる子にも楽しい遊具であることも並行して検証し、障がい児専用にならないデザインとすることを徹底しました。結果、幼稚園、公園、商業施設など環境を問わず130基以上の遊具が設置されました...

プロダクト



※3点とも、共遊空間EXPOにて会場展示いたします

遊具の研究・開発にあたっては、医療的ケア児の活動拠点として支援を行う一般社団法人Orange Kids' Care Lab.の医師でオレンジホームケアクリニック代表の紅谷 浩之氏が監修を行いました。



医師 / オレンジホームケアクリニック代表 紅谷 浩之

2024年度グッドデザイン賞のテーマは「勇氣と有機のあるデザイン」。5,773件の候補から、グッドデザイン大賞(内閣総理大臣賞)を受賞しました。



審査委員の評価コメント

「遊びは人間の根源的な欲望であり、創造力の源となる活動である。そんな遊びから最も速くに置かれた重度心身障がい児や医療的ケア児に向けたアプローチは海外を中心に広まりつつあるが、遊びを引き出すような工夫や事例はまだ少ない...

開発者のコメント

遊びと医療の間にある「遊べない」という状況、問いに対して向き合い、最初には小さく始まったプロジェクトです。監修いただいたオレンジックスケアラボの紅谷浩之先生をはじめ、ケアラボの子どもたちやケアスタッフの皆さん、福井県に住む地域のプレーヤーの皆さんなど様々な方たちに出会っていただき、常に医療的ケア児たちと一緒に遊びながら突き詰めていきました...

トークショーのお申込みについて

事前予約制 定員 300名 参加費 ¥3,300 (税込 / 1人1講座) トークショーの内容は変更となる場合がございます。ご来場登録とは別にチケットの事前購入が必要です...

ご来場事前登録について

イベント会場への入場は無料(登録制)です。

ご来場の際は、WEBサイトより事前ご来場登録の上、入場整理券を印刷してご持参いただけますようお願いいたします...

WEBサイトのご案内



kodomosummit.info 最新情報、申込みはWEBサイトで! jakuets.co.jp 会社資料のご請求、ご相談などはこちら!

会場アクセス



大田区産業プラザ PiO 〒144-0035 東京都大田区南蒲田 1-20-20 電車でお越しの方:京急線「京急蒲田」駅より 徒歩3分 R線「蒲田」駅東口より 徒歩10分 車でお越しの方:会場地下駐車場は、台数に限りがございますので、なるべく公共交通機関をご利用ください...